

平成30年度第2回釧路圏域地域医療構想調整会議議事録

平成30年11月29日（金）18:30～
釧路生涯学習センター特別会議室801

1 開会

2 保健環境部長挨拶

3 変更のあった調整会議委員の紹介

- ・ 釧路市医師会副会長 山本 直樹 氏
- ・ 北海道病院協会理事 齋藤 孝次 氏
- ・ 標茶町長 佐藤 吉彦 氏
- ・ 釧路町長 小松 茂 氏

4 報告事項

(1) 地域医療構想について

事務局からこれまでの経過と、国・道の動向について資料1にて説明

(2) 「平成29年度病床機能報告」の結果について

事務局から資料2にて平成29年度の結果について説明

(3) 「地域医療構想の推進に関する意向調査」ならびに「釧路圏域地域医療構想推進シートのローリング」について

事務局から現在実施している意向調査について資料3にて、昨年3月に作成した推進シートのローリングについて資料4にて説明し、関係機関の協力について依頼

5 協議事項

(1) 今後の会議の進め方について

事務局から資料5にて今後の会議の進め方について提案し了承された

ア 次回、意向調査の結果を共有し、地域において維持・確保の必要性が高い機能、地域における連携の現状や今後の課題などについて、病床を有する全ての医療機関を対象として意見交換を実施

イ 意向調査の結果や調整会議における議論の状況を踏まえ、平成30年度中を目途に「地域医療構想推進シート」を更新

(2) 個別医療機関の動向について

事務局から調整会議で議論すべき事項（地域医療総合確保基金（医療分）の活用及び開設者の変更）について説明、共有し、同意を得た

6 意見等

(1) 資料1「定量的基準の導入」関連

・議長

意向調査の結果だけで判断するのは難しいことなので、レセプト等客観的なデータや医療機能の分類の基準を早く出していただきたい。

(2) 資料3「意向調査」関連

・議長

意向調査の結果がまとまるのはいつか。

事務局

12月7日を提出期限として各医療機関にお願いしている。12月中にはとりまとめできると考えているので、1月の調整会議の中でお示しする。

(3) 資料4「釧路圏域地域医療構想推進シートのローリング」関連

・議長

ベッド数も大事だが、ベッドを出た患者さんの安定した生活を確保するためには在宅医療が大事になってくる。増やしていかなければならないとは思っているが、地域の状況というのはどうなっているのか。

事務局

市内に関しては、在宅療養支援診療所が徐々に増えているが、町村部は、横ばいの状態が続いている。

資源の多いところと資源の少ないところで進め方や考え方を変えなければいけない部分も出てくると思うが、資源に限られるから在宅が出来ないということの前に、どんなところがあれば少しは良くなるかということから話し合い、在宅医療の確保を進めていきたいと考えている。

未経験の先生に新たに在宅医療をやっていただくというのは、ハードルが高いという話も聞くので、医師会やCCLに相談しながら勉強会のようなものから始めてハードルを低くするような取組ができないかということや、急性期から退院されて在宅という患者さんも大勢いるので、急性期との関係づくりも進めていければと考えている。

・議長

地域医療総合確保基金については、利用したいと思っている病院、自治体等たくさんあると思うが、中身が分かりづらいというのが一つ欠点だなと思う。

医療機関や自治体に理解してもらう機会を1回設けてみてはどうか。もし可能であれば各病院のプランが出来た段階でもご呈示いただければと思う。

補助額についても現状1/2や1/3がほとんどだが、全額にするとか要望は上げられないか。(特にICT)

事務局

7月に説明会をした際にも、本庁から基金事業の説明をしたが、急性期から回復期の転換など病床機能を変えることに伴って施設整備や設備整備が必要となった場合には1/2ではあるが補助するという、病床機能の転換を促すという事でこの事業を実施している。他の事業についても、相談いただければと思う。

基金事業の一覧については、7月の時にも主だったメニューを出していたが、あらためてご紹介させていただく。

ただ、医療機関の資産形成に繋がるようなものは、基本的に1/2補助というのが基金のルールとなっているため、現実的に施設整備が10/10になるのは難しいと思うが、声は伝えたいと思う。

なお、本庁では基金事業に関し、皆様方から毎年意見を伺っており、意見を踏まえて事業のアレンジや組み替えなどを行っているので、意見や要望があればお寄せいただきたい。

・ 標茶町長

最大の課題は医師の確保と感じている。

先週も旭川医大、札幌医大、北大の医局までお願いしてきたばかりだが、来年度については、何とか現状の体制で出来そうではあるが、将来については、やはり常勤の医師をどうやって確保していくのかが喫緊の課題である。

地域枠も標茶まで来るには相当時間がかかるのかなという事もあるし、中々地域枠に募集が満たないという動きもあるので、医療機関から遠い地域をどうやっていくかということも、もう少し医療構想の中でも大きな課題としてとりあげて、皆さんで協議して、場合によっては、この中で医師を回せるような仕組みを検討するような形とか、そういうことも含めて必要なのではないか。

議長

医師確保が大変ということで、12月9日開催予定の会議において当圏域から医師確保について発言する予定である。

人口10万人当たりの医師数は、全道平均約240人に比べ、釧路地域においては170人と、およそ70人少ない。根室に至ってはもっと少ない。

この圏域を考えたときに、非常に大事な問題だと思っており、道にもお願いしていただけたらと思う。

地域枠等やっているが、まだ効果が見えてこない段階で、もう少し時間がかかるのではないか。

7 閉会